

# 新しい村で農業修行



週末農業サークル

ツチート Tsucito

「新しい村」は直売所で野菜を販売するだけでなく、「農業」を支援する場でもあります。今回、そんな想いで開催された、本格的な農業講座「週末農業サークル ツチート」を紹介します。



△字西原にある圃場で収穫したニンジンはコンテナに入れられ軽トラックで「新しい村」の倉庫に運ばれます

△玉ねぎの植えつけ作業は根気のいる地道な作業でした



△種をまく畑のウネの幅、長さをそろえるために測っていきます

△参加者は米ぬか、カキがら、魚粉などの有機肥料で土づくりを行います



## プロの技を学びたい

「新しい村」の農業部門が主催して「週末農業サークル ツチート」が開催されました。趣味の農業だけでは物足りない、という方に本格的な「農業」を体験してもらおう、という企画です。全5回の講座では朝から夕方まで、「新しい村」が耕作する畠で農作業をしながらノウハウを学びます。昨年、1期と2期に分かれて開催され、参加者はそれぞれ10人ほどです。

参加者のほとんどは普段、市民農園などで野菜を作っている皆さん。「プロの技を学びたい」という意欲に満ちています。町内だけでなく県内各地からの参加がありました。「新しい村」のスタッフと一緒にになって有機肥料を使った土づくり、種まき、防草、収穫をひと通り経験し、学んでいきます。

お昼時間には午後からの作業にそなえて、ほ場で収穫したばかりの野菜でつくった鍋を囲みながら、野菜談義。農業づけの1日です。

## 農業への関心が広がっていく

参加者の半分以上は、春夏編の1期、秋冬編の2期を連続受講しています。「いろいろな野菜の栽培方法を1年を通じ学びたかったので」と、さいたま市から参加している山田さんは話します。

第2期では白菜、春菊、オクラ、大根、かぶ、ルッコラ、玉ねぎ、ニンニクなど多品種の栽培を経験しました。収穫したニンジンの袋づめや出荷も経験しました。「農業法人で働いているみたいで有意義でした」と参加者た

ちは日々に話します。雨よけ栽培用のパイプハウスの組み立てや、防虫ネットを張る作業も経験しました。雨の日には、倉庫の中でセルトレイに種まきをしました。

狭山市から参加した住谷さんは「こうやってやるのか、ということばかりでした」と振り返ります。「今年は自分の畠も収穫が倍になりましたよ」と喜びます。

参加者の中には全5回が終わった後も「新しい村」に収穫を手伝いに来た方や、農業大学に入学して本格的に学びたいという相談に来られた方もいたそうです。

## 人材を生み出す仕組みへ

「新しい村」の農業部門では、現在20ヘクタールの水田、1ヘクタールの畠で米、野菜を生産しています。いずれも、耕作をしなくなった田畠を借り受けたものです。栽培した野菜は「新しい村」内の直売所だけでなく、春日部のララガーデンやイオン、幸手、岩槻のヨークフーズにも出荷しています。

参加者は消費者でもあり、将来の生産者でもあります。また「新しい村」を応援するサポーター予備軍にもなり得る人材です。

「新しい村」農業部門の名城さん、松田さんは「今後もこの企画を続けて、農業人材の裾野を広げていきたい」と、夢を語ります。

第3期目は3月から始まります。土に種をまき、作物を育てるように「新しい村」の取り組みは続きます。

チケット第3期の募集内容は18pをご覧ください  
新しい村 アグリ生産課31・1288



大蔵ダイコン、練馬ダイコンを収穫(住谷さん)



雨の日は室内でセルトレイに玉ねぎの種まき作業



マルチシートの張り方を学びます



種まき後の畠(山田さん)



精米後の袋詰めも体験



出荷用ニンジンの袋詰め



参加者全員で栽培用のパイプを組み立てていきます



「新しい村」の農業部門であるアグリ生産課 後列左から名城さん、松田さん



「新しい村」のスタッフが有機肥料の成分と混合割合をホワイトボードで説明 ニンジンの品種の違いについて聞き入る参加者

